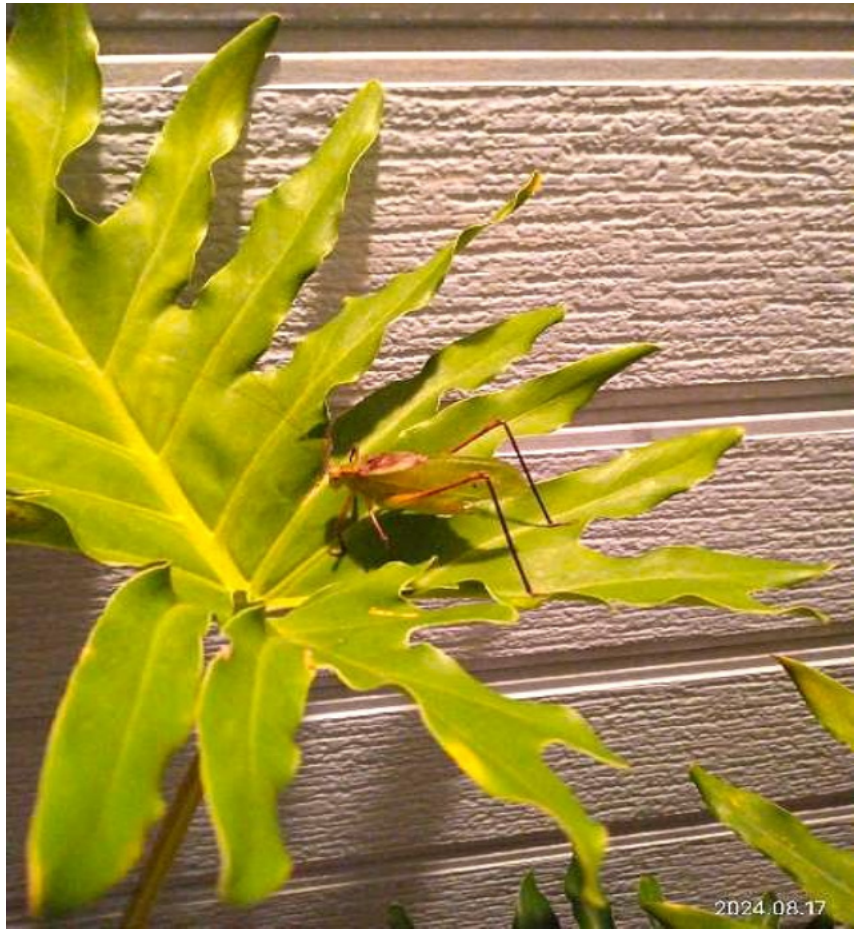


——
みくじびと号
外

盆のお帰りの「青霊書虫」

クツワムシ



(りりりーん、りりりーん…浄土黒電話)
「はい、『あの世とこの世を結ぶ』周南とんぼ交通です」

「もしもし、わしら天地の先祖じゃが、きょうが15日じゃけえ、そろそろ明日の『タクシー』予約したいんじゃが」

「はい、『古墳セミアーバン・天神の里』の天地さまですね。(カチャカチャカチャ)天地様、申し訳ありませんが、毎年手配させていただいております、お帰りの便、今年は『シオカラ号』ですが、カマキリに捕食されて手配が難かしくなりました。自然の節理にてどうか、ご勘弁ください。16日当日は、難しい状況です。17日に代替便を手配します」

「なにー、やっちまったなー。しょーがねーなー。じゃー、1日待ったらいいのか？ こちとら炭鉱・田川の出だ。何日も待たすんじゃねえぞ！」

「かしこまりました」

2024年8月17日

天地家の次男・成行は、母のはるみとつまらないことで口論していた。はるみは、午後九時になったのをみはからって、テレビを消して「じゃあ、先に寝るよ」と居間を出て、廊下に向かう。

「ガチャガチャガチャ」

「あっ、クツワムシが鳴き出したねー、なりゆき、ほれ聞こえるでしょう？」

「おー、ほんとうじゃー。すごい大音量じゃね。どこにおるか観に行こうやー」

庭のチョウチンカズラに当たりをつけて探すもいないが、声は近い。

「おった、なりゆき！ 眼の前じゃった。おほほ」

「すげー」

(ヨイショヨイショ、どかどかどか)

(「クツワムシ号」に向けてご先祖様が玄関に集まってきた)

「おうおうおう今年はこれで帰るんじゃなー！」

「なかなかでかいせなかじゃのう」「ほい、ナナちゃんもおいで」「くーんくーん」「ほいじゃ、現世の天地一家よ！ またくるけえの！ 今年は掃除や食事など、迎えがそろってあって我ら大満足じゃった。今年からこの家は栄えるぞい。そしてまた顔をみせるんじゃぞい。それまでさらばじゃ」

※この上のクツワムシの写真を昆虫画家の山下稔哉さん(山口市)にお見せしたところ「クツワムシがこんなに至近距離にいることは珍しい。(天地さんのいう通り)これは、お帰りが牛で、とお盆はいいますし、動きがスローなクツワムシで今年の盆は戻られたというのは大変興味深いことととらえて良いと思います」とのことでした。